



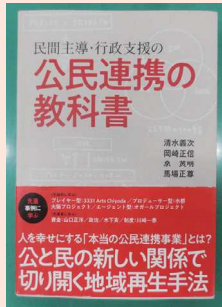
# マーチィ's ROOM

## マーチィに訊け!

まちづくりライブラリーからおすすめの一冊 県都市計画課で貸し出しできます!

「民間主導・行政支援の公民連携の教科書」

著者/清水義次ほか 出版社/日経 BP



今までの成長時代のまちづくりは、「行政主導」または「行政主導+市民参画」で行われてきました。しかし、社会の縮退に合わせて、今までどおりの手法が通じなくなった現在では、都市・地域を経営することで、持続可能性あるまちづくりを行わねばなりません。

本書では、そのような持続可能な都市・地域を経営していくための知識として、「民間が主導し、行政が支援する」地域再生事業の在り方や、その仕組みの中で、稼ぎながら公共的な活動を行う「PPPエージェント」(PPP=Public-Private-Partnership、エージェント=代理人)の役割等について学ぶことができます。

ちょっとだけ紹介しますと、PPPエージェントには、「1.プレイヤー型」、「2.プロデューサー型」、「3.エージェント型」があり、これからの日本においては、「プレイヤー型」の公民連携が普及していく可能性が高いことが示唆されています。他にも、民間主導・行政支援の3つのモデル(千代田区の廃校を丸ごと借り受け、アート拠点を自主運営している「アーツ千代田 3331」、河川と水辺の空間を使いこなす「水都大阪プロジェクト」、公的事業推進の代理人として民間目線でまちを生む「オガールプロジェクト」)など、民間主導・行政支援で地域をどう変えていくか、というヒントが盛りだくさんです。

これからの縮退時代に最適な地域づくりについて関心がある方は、ぜひ、お手にとって見てください。

今号のおすすめ  
ライブラリー  
こちら!



## マーチィ VOICE

### ●ファシリテーターの紹介●

みなかみ町新治支所 林 正典



林 正典さん



発表後の記念撮影

平成30年度の講座に参加したみなかみ町役場新治支所の林正典です。地域での研修会場が安中市とみなかみ町と知り、それぞれの特徴を比較して勉強したら何かが掴めそうだと閃き参加を申し込みました。研修はグループ討議が多く、いろいろな人の意見、考えを知ることが出来、自分の視野がずいぶん広がったと感じました。また、研修で紹介されていた大下茂先生の『行ってみたい!と思わせる「集客まちづくり」の技術』の本に大変興味を持ち、この本を購入し、自分の視野を一層広げたいと思いました。

研修では目標設定・時間配分などを間違えると、伝えたい事が十分に伝えられない、十分にコミュニケーションがとれない、という事になることも学びました。そして、私の学びたかった「行ってみたいと思わせる」ためのヒントをたくさん得て、大変有意義な研修となりました。

地域を巡る研修では、安中会場で、歴史の町の印象を色濃く残す、武家屋敷・教会・新島譲の生家等の散策で歴史を学び、たくみの里会場では、体験型観光地としてのみなかみ町を学ぶことが出来ました。

令和元年度は、研修の成果を生かすために「花と緑のぐんまづくり2019inみなかみ〜ふるさとキラキラフェスティバル〜」のたくみの里会場の北に位置する須川地区で、初越の風の掲示板を短歌系文学の核として、地元小中学校・高等学校との交流を深め、さらには、広く外の人との交流を図り地域の活性化に協力していきたいと「過疎地域生き生き地域作り支援事業」を11月に申請しました。

## マーチィの掲示板

### 国土交通大学校へ行ってきました!



受講生みんなと記念撮影

こんにちは。群馬県都市計画課都市計画係の小河原です。

9月24日から10月4日までの11日間、国土交通大学校で実施された「土地利用計画研修」を受講しました。

研修は講義形式がメインで、「都市計画とは?」から先進都市の事例まで幅広く学ぶことができました。自分の理解が浅かった分野や都市計画以外の関連分野も総ざらいでき、より理解を深めることができました。

講義と並行して、選んだ都市をモデルに立地適正化計画を作成する班別課題演習にも取り組みました。都市構造可視化ツールを活用した都市構造分析で課題を見つけ、まちの将来像を想像して形にするなかで、実務に役立つヒントがたくさん見つかった気がします。

充実した研修内容もさることながら、やはり国交大の研修といえば全国各地から集まった人たちと交流できることが最大の魅力ではないでしょうか。出身も年齢も様々ですが、都市計画という共通点だけでたくさんの人と仲良くなれて、11日間があっという間に感じました。この研修で吸収したことを、こんどは群馬県のまちづくりにフル活用していけるよう頑張ります!

